

ふれあい 学び 感じよう 佐木島の宝

三次市立和田小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 交流 社会奉仕 自然 勤労生産

体験活動場所・宿泊場所 三原市青年の家（さぎしまセミナーハウス）

【学校紹介】

○和田小学校の校区は、和知町と向江田町の二町である。中央を南北にJR芸備線が走り、国道183号線が三次市と庄原市を結んでいる。庄原市の国兼池を源流とする国兼川が二町を横断し、校区の農地を潤している。和田地区は古代から開けた地域であり、それを裏付ける古墳群や奈良時代の寺町廃寺跡（国の史跡）がある。

本年度で33回目を迎える和田地区「交通安全パレード」は、平成23年に「交通安全優良学校」（中国管区警察局長・中国交通安全協会局長表彰）として表彰を受けるなど、歴史と伝統のある活動となっている。また、地域ぐるみの「安全ネットワーク」「青色パトロール隊」と一体となって防犯安全活動にも積極的に取り組み、大きな成果をあげている。児童は地域の温もりを感じながらのびのびと育っている。



- 校長名：神田 秀浩
- 児童数（学級数）：94名（8学級 特別支援学級を含む）
- 所在地：広島県三次市向江田町728
- 電話番号：0824-66-1026
- URL：<http://www.miyoshi-wada-e.hiroshima-c.ed.jp/>

【体験活動のねらい】

○自然体験活動や地域の人々・地域の学校との交流活動、社会奉仕活動等を通して、児童の自律心や主体性・協調性、コミュニケーション能力の育成を図る。

〈重点事項〉

- ・よりよい人間関係を築こうとする態度や規範意識・コミュニケーション能力等の社会性や自己肯定感を高める。
- ・島に暮らす人々との交流や体験活動を通して、自然や文化・産業、暮らしの知恵や工夫、願い（郷土愛）に気付かせ、自己の生き方を考えさせる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
4月 5月	事前学習 ○4-(1)「マイルール」 ○ふれあい 学び 感じよう 佐木島の宝 ・課題づくり ・学習計画作成	1 6 (5～6月)	道徳 総合的な学習の時間	学校	担任

6月	○4-(4)「朝飯前のボランティア」 ○私たちの生活と食料生産 ○衣服の手入れ 調理実習 ○班編成, 生活係, しおり作成 ○紹介文を書こう ～学校紹介～	1 5 5 4 4	道徳 社会科 家庭科 特別活動 国語科	学校	担任
7月 3日 ～ 6日	集団宿泊活動 ○海辺の干潟観察 ○野外炊飯体験 ○海辺のクリーン活動体験 ○佐木島探検 ○地元の小学生や農家の方との交流 体験(農業体験) ○クラフト活動・家族への手紙	24	理科 社会科 道徳 家庭科 総合的な学習の時間	現地	学校職員 地元ボ ランテ ィア 指導員
7月	事後学習 ○お礼の手紙作成 ○体験活動のまとめ	1 4	国語科 総合的な学習の時間	学校	担任
9月 10月	○課題づくりと資料作成 ○発表朝会「体験活動報告」 ○1-(5)「キャベツにかけた夢」 ○3-(2)「一ふみ十年」 ○学習発表会への取組 ・課題設定 ・テーマ別資料作成 ○学習発表会「佐木島体験活動報告」	8 1 1 1 10	総合的な学習の時間 朝会 道徳 総合的な学習の時間 学校行事	学校	担任
11月 12月	○報告文を書こう ・体験活動で学んだことを作文に書く	4	国語科	学校	担任
3学期	○発見!「和田の宝」	20	総合的な学習の時間	学校 公民館 等	担任 講師

【体験活動の概要】

(交流体験)

○「鷺浦小学校との交流」「農業体験」

地元の鷺浦小学校を訪問し、全校児童 13 人と教職員の方々と交流を行った。本校から事前学習で用意したポスターを用い学校紹介をすると、鷺浦小学校からは佐木島検定クイズで歓迎してもらった。クイズは佐木島を上手に紹介する内容で、楽しく交流することができた。

地元農家の山根さんの指導で、山の斜面の段々畑で、みかんの摘果作業を体験した。雨の中、かっぱを着用しての作業であった。事前に社会科で学習した島の温暖な気候に適した農作物が、毎日のて

いねいな作業によって生産され、私たちの元へ届くことを実感できた。



〈自然体験〉

○「海辺の干潟観察」「ウミホタルの観察」

水辺教室指導員の岡田さんに指導していただき、干潟の観察やアマモ場での押し網を体験した。数多くの種類の海の生物や稚魚に触れることができた。タツノオトシゴの産卵の瞬間にも出会うことができた。この時に見た生物を、発表会で「海辺の生物図鑑」として発表した。

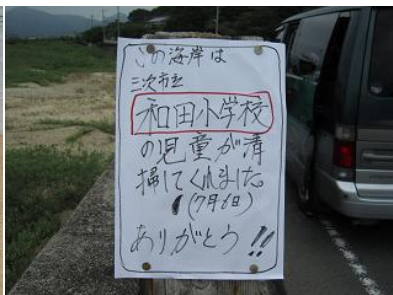
また、夜に、ウミホタルの観察をした。神秘的な青白い光が、刺激によって生き物から放たれるものであるということに、児童は驚き感動していた。



〈奉仕活動〉

○「海辺のクリーン活動」

体験活動の最終日に、お世話になった佐木島の方々への感謝の気持ちをこめて「佐木島を愛するボランティアガイド」のみなさんと一緒に、海辺のクリーン活動を行った。佐木島へ着いた時、横断幕を持って歓迎していただき、砂浜の植物の説明や島の案内をしていただいた。このクリーン活動の指導をしてくださったボランティアガイドの方々のおかげで、佐木島を愛するみなさんの願いや思いに触れることができ、充実した活動を行うことができた。



【体験活動の効果を高める事後学習】

○総合的な学習の時間「発見！和田の宝」

4月当初から、「山・海・島」体験活動での体験や学びを、総合的な学習の時間の年間計画に位置づけ、課題発見力、課題解決力、主体的創造的な態度、コミュニケーション能力の観点で評価規準を設

定し、学習活動を設定していった。佐木島の宝を発見した後、自分の地域を見つめ直し、和田の宝を発見し、まとめていく学習を進めている。佐木島で、「みなさんの住んでいる地域にも宝物があるはずですよ。見つけてくださいね。」と言っていたことが原動力になっている。

【交流先や施設等との連携】

- 事前の下見において、体験施設の担当者や体験学習講師と打合せを行った。児童の活動を予めイメージして、細部にわたって確認した。
- 屋外での体験学習や自然観察、奉仕活動等、天候に左右される活動が多かったため、雨天時のプログラムについても、事前確認を行った。
- 依頼した講師の方々のお話を参考に、無理のない余裕を持った内容で活動プログラムを作成した。

【評価の工夫】

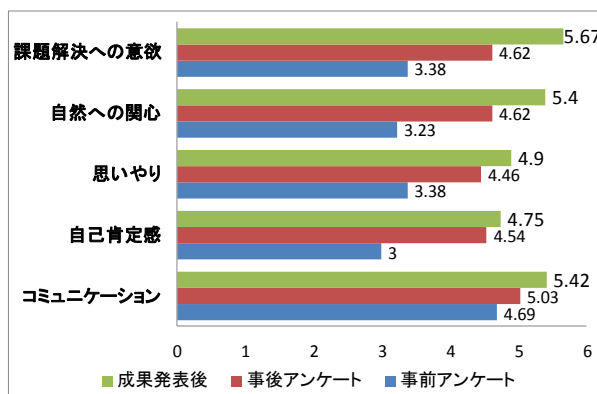
- 宿泊活動中は、毎日夕食後、入浴前の時間に集まり、活動の振り返りを行った。自分たちで作成したしおりの振り返りのページに、今日の気づきや発見、自分と友だちの成長などを書き綴っていった。
- 午前と午後に一活動ずつと余裕をもったプログラムを作成し、指導と評価の場面をいつでも設けられるようにした。また、肯定的な評価を行う場面や、じっくり考えさせていきたい場面では、ミーティングルームを使い、随時、評価を行った。

【安全面の配慮事項】

- 安全マニュアルの冊子を作成し、企画・準備・実施段階における安全対策、海における活動中の危険な状況と留意点、緊急時の対応について等、指導者は共通認識をもって活動に備え取り組んだ。
- 児童の事前の健康調査、緊急連絡先等の把握をした。
- 現地関係機関（病院・駐在所・教育委員会等）との緊急連絡方法確認を行った。
- 熱中症対策として、十分な水分補給の準備をした。また、宿泊先では、冷蔵庫の確保も行った。

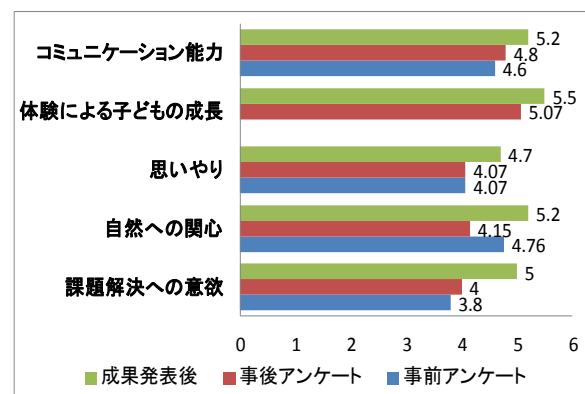
【体験活動の成果と課題】

<成果>アンケート結果



児童

○体験活動後の児童へのアンケートでは、問題解決への意欲、自然への関心、思いやり、自己肯定感、コミュニケーション能力のポイントが上昇した。また、成果発表後においては、「自分がくらす地域のことをもっと知りたい」という項目について5.5ポイントという高い数値も出た。これは、総合的な学習の時間との関連を考え、位置づけたためであると考えられる。



保護者

○保護者へのアンケートでは、コミュニケーション能力、体験による子どもの成長、思いやり、自然への関心、課題解決への意欲のポイントが上昇した。自由記述では次のような意見をいただいた。

- ・ 生き物や自然について興味がでてきました。いろいろな話をみんなに上手に伝えることができるようになりました。
- ・ 声かけをしなくても自主的に行動するようになったし、まず、自分で問題を解決しようと努力し、弱音をはかなくなった。
- ・ 今までと比べて、物事に積極的に取り組むようになった。
- ・ 受け止める力がついたと思う。
- ・ 何も言わなくても、「ありがとう」や優しい言葉を言えるようになった。
- ・ 自分のことがちゃんとできるようになった。家の手伝いもよくする。
- ・ 学習発表会では、原稿を全員が全部覚えて、堂々と発表している姿に感動しました。みんな成長したなあと思いました。

○特別支援学級の児童2名と、仲良く協力する姿が見られるようになった。交流では、指導者の働きかけがなくても、声を掛け合い一緒に活動する場面が増えてきた。

○児童に積極性が生まれ、児童会の役員に立候補する児童もいた。次はその児童の報告文の抜粋である。

ぼくは、この活動をして思ったことが三つある。

一つ目は、自分たちの力だけでやりとげた事が多かったということだ。自分たちで料理をして、洗濯をして、掃除をして、時間を見て活動することができた。料理はおいしく、他のこともうまくできた。セミナーハウスでは施設の人に迷惑にならないように気をつけることができた。

二つ目は、いろいろな人と出会えたことだ。佐木島ではたくさんの人にお世話になった。ぼくは、初めての人に会うとき、とてもはずかしいと思っていたけれど、この体験活動では、初めて会う人ばかりで、なれたせいはずかしいとは思わなくなった。そして、みんなが親切な人で、出会えてうれしかった。

三つ目は、友情を深められたと思うことだ。四日間ずっと一緒に仲良くなった。友だちや先生のことがよくわかってきて安心できる。一ヶ月くらい体験活動をしたいなあと思う。

ぼくは、二学期、児童会役員に立候補して書記になった。学習発表会の和田狂言太鼓では、大太鼓を打ってかけ声もかけた。最後の児童会あいさつもした。これまでは、人前で話すことは、はずかしくて絶対にしたくないことだった。体験活動をしてぼくは、それがはずかしくなくなった。これからは、学校のリーダーとしてみんなをひっぱっていきたいと思う。

<課題>

- 体験学習を実施する対象学年（5年生）までに児童に身につけさせたい力を明確にして、全体で共有していく。
- 体験活動で得た学びや成果を、今後、学習活動のどの場面で継続させ生かしていくのか、児童に意識させながら活動を仕組み、評価をしながら更に伸ばしていく。
- 長期宿泊体験活動を先行実施してきたノウハウをもとに、次年度から継続的に実施していくためには何が必要か、保護者の意見を聴取しながら、学校としての方向性を具体化していく。